

# 教宣 せぶん

## サマジャンの舞台裏

13日、大型で強い勢力をもった台風4号の上陸が懸念されるなか、翌日から開催される「サマジャンボリー」の準備に、白馬にやってきました。東京から宅配便で送られてきたたくさんの荷物を所定の位置に運び、テントや椅子・テーブル、ナベなどを地元の観光協会へ借りに行き、テントを張る組と花火の段取りを行うグループに別れ、作業を行いました。この日の準備には本部の書記さんをはじめ10名であたりました。私たち日勤外勤支部からも半分の5名の参加がありましたが、皆、日ごろから私たちのたたかいに全面的にご協力・ご支援いただいている本部のイベントに、少しでも「恩返し」ができれば、という思いからの参加でした。サマジャンの責任者である横山書記からは「本当にありがとうございます。助かります」というあたたかい言葉をもらいました。

「あ、いけね」。静寂を切り裂く大きな声が夕食後のロビーにこだましました。サマジャンの看板を書いていた岡田書記が「サマジャンボリー」の「ン」の字を書き忘れてしまったゆえの大声でした。岡田書記の「看板書き」という特殊能力に、皆が感嘆していた直後のできごとでした。この窮地を救ったのは小野寺組合員でした。持ち前の手先の器用さを発揮し、見事に修復していきます。御二人の特殊能力に、大きな拍手をおくりました。

深夜、台風の接近が懸念されるなか、大阪の長田組合員に電話を入れると、「たこ焼きは無理やけど、なんとか行こうと思いますわ」という元気な関西弁を聞くことができました。現地で会うことはできませんでしたが、台風の露払いをするがごとく風雨の中、約8時間をかけて白馬までやって来てくれました。来年はたこ焼き、楽しみにしています。

当日の14日、時間ができたので再び会場に足を運んでみると、ちょうど体育館で「借り物競争」をしているところでした。沢田組合員一家をはじめ日勤外勤支部関係者もたくさん来てくれていました。また、前日の準備から来てくれていた井出・土生組合員も予定を変更して参加してくれていました。

共栄支部、あいおい支部、エース支部、日新支部の組合員やご家族の方が自己紹介して「借り物競争」に参加していました。「ジャイアンツファンの女性の方」というお題に、誰も立ち上がらなかったのが印象的でした。

今年のサマジャンはあいにくの台風の接近で、参加を急きょキャンセルされた方も多

かったと聞きました。また、できれば晴天のなか、青空と白馬山麓のコントラストや満天の星空を見ていただきたかったと思います。それは来年以降の「お楽しみ」になります。

今回、このイベントの舞台裏に参加して、岡田書記の「ン」の字の書き忘れには、主催者側の熱いところがその「原因」にあったことがわかりました。多くの方の熱いところで、このイベントが開催されていること、開催されてきたことがわかりました。今後、白馬でサマジャンが開催されていく以上、主催者側のこの熱い「ところ」に私も触れていきたいと感じました。おそらく、仕掛け花火大会は台風の合間をぬって開催できたと思いますが、良かったですね。来年もまた白馬で会いましょう。